

平成27年度「新霊合祀慰霊祭」の御報告

11月7日（土）11：00～14：00、附属小学校体育館に於いて、平成27年度木犀会「新霊合祀慰霊祭」を開催いたしました。

来賓・支会長・評議員に次の方々をお迎えしての開催でした。

○ 来 賓

池ノ上	克	宮崎大学学長
添田	佳伸	宮崎大学教育文化学部長
幸秀	樹	宮崎教職大学院教育学研究科長
河原	国男	宮崎大学教育文化学部附属学校園統括長
下川	新吾	宮崎大学教育文化学部事務課長
安田	繁	木犀会顧問（前会長）

○ 支会長

川崎	満也	日南地区木犀会会長
西國原	吉市	都北地区木犀会副会長（会長代理）
谷口	紀洋	西諸県地区木犀会会長
岩切	美恵子	延岡地区木犀会副会長（会長代理）
石川	安雄	日向地区木犀会会長
野尻	泰弘	西臼杵地区木犀会会長

○ 評議員

西森	敏弘	宮崎市（小）評議員（宮崎市立生目小学校長）
安藤	真二	宮崎市（中）評議員（宮崎大学教育文化学部附属中学校長）
後藤	世志哉	西諸県高原町評議員（高原町立狭野小学校長）
山下	美栄子	都北地区評議員（都城市立夏尾小学校長）
大久保	扶美子	西都地区評議員（西都市立穂北小学校長）
原口	広司	西臼杵地区評議員（五ヶ瀬町立鞍岡小学校長）

【 御来賓の皆様 】



【 本年度の合祀者 】

あきづき 秋月フサエ 様	かしのみわこ 菓子野美和子様	のぐち たつ お 野口 龍男 様	かわそえ ます お 川添 益雄 様	おおやま み ち こ 大山美智子 様
かわうちゆう じろう 川内勇次郎 様	か い い え み 改 井 笑 様	やましろ じゅんいち 山代 潤一 様	はらぐち てる お 原口 昭男 様	そめ や ただし 染矢 忠 様
いわさき はじめ 岩崎 肇 様	かわ ぐち ひろし 川 口 博 様	さかもと くに お 坂本 國雄 様	ときとう もとむ 時任 素 様	はやし くに こ 林 都子 様
はしもと 橋本 トミ 様	さ たけ 佐竹トミ子 様	はるはら ひろし 春原 博 様	ふか み よしかず 深見 好一 様	そえじま よしのぶ 副島 義信 様
お かわ ふじ お 小川 藤雄 様	こじま とめ じ 小嶋 留次 様	おおしげ ゆう こ 大重 裕子 様	せい まさかず 清 正一 様	さ さ き とし お 佐々木敏男 様
まつうら つぎ お 松浦 二男 様	やなぎ た ゆ い こ 柳 田由位子 様	こ もり ひこそう 小森 彦造 様	たかはし まさあき 高橋 政秋 様	かわ の とも こ 河野 友子 様
い で としあき 井手 敏秋 様	み し ま き さ こ 三島癸佐子 様	ひらしま のり お 平島 典男 様	おにつか かず お 鬼束 和雄 様	はしぐち しゅんいち 橋口 俊一 様
ぬま た ただ お 沼田 忠雄 様	かわごえ かず お 川越 和夫 様	うえみず かずあき 上水 和昭 様	まつうら まさみつ 松浦 政光 様	
みやごえ 宮越アヤ子 様	さかもと いち お 坂本 市夫 様	こ だ ま いく お 児玉 郁雄 様	さかもと かつよし 坂元 克吉 様	
かわ の 河野 カチ 様	くらもと しょういち 倉元 正一 様	うえむら ただし 上村 渉 様	ほしの じゅん じろう 星野 潤二郎 様	
た ぐち のりとみ 田口 則富 様	いわきり 岩切 ア斗 様	ながとも ひとみ 長友 眸 様	あや ベ さ よ こ 綾部佐代子 様	
にしやま くに お 西山 國夫 様	おお た さだみつ 太田 定光 様	あり ま ちか お 有馬 親夫 様	みやた やすひこ 宮田彌壽彦 様	

【 慰霊祭式典 】

1 開式のことば（前田稔副会長）



2 祭主合祀新霊進奏（緒方明夫会長）



3 黙 禱



2 送魂追悼の調べ

- 附属中学校44名の合唱部の皆さんが、
「アメージンググレイス」
「千の風になって」
を合唱して下さいました。

附属中合唱部は、今年度NHKコンクール宮崎県大会金賞、九州大会では銅賞、合唱コンクール九州大会では金賞を受賞しています。

大変すばらしい歌声で、会場の皆さんも、大変感激されていました。



2 会長慰霊の詞



慰霊の詞

菊薫る、今日この日、御遺族をはじめ
御来賓ならびに多くの木犀会会員参列の
もと、母校宮崎大学教育文化学部附属小
学校の体育館を斎場として、平成二十七
年度、木犀会招魂の碑に、合祀されまし
た御霊に、謹んで慰霊の詞を申し上げま
す。

年年歳歳、雨の日も風の日も、母校の
跡地に安置されていきます招魂の碑に寄り
添い、静かに見守ってくれる木犀の木が、
今年も輝くばかりの黄金の花を緑鮮やか
な大樹一杯に咲かせ、その馥郁とした香
りを天高く届かせ、清められた招魂の碑
に招き、御霊をこの斎場に誘ってくれま
した。

そして、また、この附属小学校の正門
の横に、あの太平洋戦争の宮崎空襲で、
一瞬にして爆死しました師範学校附属小
学校のいと子十二名の供養の碑が安置
されていますが、そのいと子も今日は
その供養の碑の前に並び、御霊を静かに
迎えてくれたことでしょう。

その迎えに、御霊におかれましても、いとし子一人一人の手を取り、優しく抱きしめられましたことと、私達には手の届かぬ御霊の姿に、思いをいたしています。

加えて、ここにお迎えしたこの斎場は、「附属学校も、木犀会と一体となつて、御霊を慰霊します。」と附属小・中学校の先生方をはじめ、生徒児童の皆さんによつて、設営されました。

更に、附属中学校合唱部の生徒の皆さんが、この日のために曲を選び、練習を重ね、ただ今、心を込めて合唱し、送魂追悼してくれまし

このように、招魂の碑を清め、斎場を整え、そして追悼の歌唱に誘われて、ここに令祀されました御霊は、先程、御芳名を申しあげました五十五名の御霊であります。

私達は、その御霊の一人おひとりの永久の旅立ちの思いについて、知る由もありませんが、御霊の看護に身も心も捧げられた、御遺族の限りない寂しさ悲しさは、如何ばかりかと、お掛けする言葉もなく、ただただ表心より、哀悼の意を表するばかりであります。

振り返りますと、今年は、戦後七十年の節目として、国挙げて、今日に至る時代の進展について多くのことが語り継がれました。その中にある、御霊一同が、常に県教育界の中心となり、学校教育に、社会教育に、心血を注がれた教育振興のご功績は、今尚、私達に、広く語り継がれているところであります。

ここに、そのような大きな足跡を残された、御霊お一人お一人のご芳名に接したとき、改めて、私達には、御霊の教育一筋に励まれた、御生前のお姿や、折に触れて頂いた身に染みる、励ましのお言葉など、さまざまな想い出が、昨日のように辿られ、限りない哀惜の情が、万感、胸に迫っているところであり

ります。そして、その御霊も、今はこの祭壇で、木犀会と母校との絶たれることの無いこの強い絆に心安まれ、教師を目指して、日夜励まれた学生時代や恩師・先輩・後輩との出会いなどに、懐かしく想いを巡らわされて、いられるのではないでしうか。

また、御遺族の方々にとりましても、ここに、御霊が青春を謳歌し、勉学に励まれた若き時代の学びの場を訪れられ、感無量のことと推察いたしております。

ここで、目を転じますと、母校は、遠く学園木花台に移転して三十年近くになります。しかし、その移転の記念樹としてこの船塚の木犀の木から株分けされ、教育文化学部の方に植栽されました若木は、今は緑鮮やかに繁茂し、秋には馥郁とした香りをキヤンパス一杯に漂わせ、次代を担う気鋭に満ちた学生を温かく見守り、励ましています。

このように、たとえ母校が遠く離れても、御霊が嘗々と築かれた母校との絆は、私達同窓会のシンボルである、木犀の木を通して脈々と引き継がれています。

更に、また、母校教育文化学部では、この絆を強く継承しながら、今日の激しく進展する社会の要請と、地域のニーズに応じた、新しい時代の教育を担う、教員の養成に特化した「教育学部」づくりに邁進されています。このような現況に、私達木犀会は、会員一体となつて、母校の目的が十分に達成されますよう、寄与・支援することをも、誓い合っているところであります。

このことは、また、御霊が私達に託された、大きな願いであると思います。

このように、祭壇におわします、御霊の前に立ちますと、惜別の詞、託されたことへの誓いなど、尽きるものではありません。しかし、先人の言葉に、故人を崇めるには、故人の足跡を尊とび、学ぶことによつて、崇めなくてはならないとあります。私達も、この言葉を胸に刻み、御霊の積み重ねられた、輝かしい功績を尋ね、学び、そして発展させ、ここにおわします全ての御霊の御期待に沿えるよう、日々精励することをお誓いいたします。

どうぞ、御霊におかれましても、天界よりよくお導きいただき、お見守りください。

最後に、既に、招魂の碑に鎮まれています御霊には、ここに令祀されます新霊を、木犀の香りで、温かく迎えて頂き、共に、母校の揺るぎない発展と、同窓会木犀会の一層の充実を、お見守りくださるよう、心よりお願いいたします。

それでは、改めて、御霊のおん安かれをお祈りし、併せて、御遺族の皆様のご健康とご多幸を心から祈念し、慰霊の詞といたします。

平成二十七年十一月七日

木犀会会長 緒方明夫

3 遺族代表追悼の詞



遺族代表追悼の詞

本日は、私たちの身内のために心温まる盛大な新霊合祀の慰霊祭を催していただきます事、まことに有り難く木犀会ならびに事務局の皆様方に心より御礼申し上げます。

本年度合祀していただきますのは、昭和七年卒から昭和四十八年卒までの会員五十五名とのことでございます。

その幅広い年代の人々の生涯は、それぞれ異なっておりますが、ここに等しく木犀会員として合祀していただきます事は、故人はもとより、私たち身内の者にとりまして、有り難くうれしいことでございます。

今までに合祀されていらっしゃいます恩師の皆様方、先輩の皆様方、何とぞこの度合祀されます人々の霊をあたたく迎えてあげて下さいませ。そして、皆様と同じように心安らかに過ごしい来ますように、お導き下さいませ。

身内を亡くした悲しみ淋しさは、なかなか消えることのない日々を過ごしている私どもですが、本日の慰霊祭に参加させていただきまして、心の安らぎを味わうことができました。

木犀会員の皆様方や事務局の皆様方に、これから何かとお世話になることが多々あることと存じますが、その節は何とぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、本日お忙しい中に御出席いただきました来賓の皆様方、木犀会員の皆様方のあたたかいお心遣いに、私ども遺族一同深く感謝申し上げますお礼の言葉言葉と致します。

本当にありがとうございます。

平成二十七年十一月七日

遺族代表 川越 寿子

4 献花

【 緒方会長 】



【 遺族：河野家 】



【 宮崎大学池ノ上学長 】



【教育文化学部添田学部長 】



【 木犀会安田顧問 】



【 日南支川崎会長 】



「献花」は、会長、遺族、来賓、支会長、評議員、木犀会代表と32名に方をお願いしました。荘厳で厳粛な中で、時間をかけて献花していただきました。今回は、木犀会代表肥田様と一緒に、参列の会員も起立して一礼をしました。会員の皆様、御協力ありがとうございました。

6 招魂祭の歌



○ 偲ぶ会（御遺族の集合写真）



☆ お礼とお詫び

参列された方に「感動」と「絆」を改めて感じてほしい会となるよう、特に接遇を大切にしましたつもりでした。しかし、事務局側の失態もあり、会員の皆様の中には不快な中で帰られた会員もいらっしゃったのではないかと思います。改めてここでお詫び致します。

そんな中で、附属中学校合唱部の「アメージンググレイト」と「千の風になって」の合唱はとても好評で、激賞されたことは大変うれしかったです。

年々、会員の参加状況が厳しくなる中で、特に代議員の先生方の御苦勞に感謝！です。

次は、**2月28日（日）**の「母校創立131周年記念祝賀同窓会」です。この会では、附属中学校の吹奏楽部が楽しい演奏をしてくれることになっています。ぜひぜひ、足をお運びください。**1月に案内を発送**します。

